

韓国環境部プレスリリース 2020 年 2 月 18 日付

江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 228 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1322775&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は 2 月 17 日江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゲン）上西面（サンソミョン）の広域フェンス内で発見された野生いのしし死体 1 個体から ASF ウイルスが検出されたと 2 月 18 日明らかにした。

国立環境科学院は 2 月 18 日死体 1 個体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで野生いのしし ASF 陽性事例は全国的には 228 件になった。

野生いのしし ASF 標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に野生いのししの死体を処理した。

国立環境科学院は、「今回陽性となった死体は、環境部捜索チームが山を捜索している際、既存感染個体発見地点から 40m 離れた場所で発見された。この地域では感染死体がさらに出てくる可能性が高いため、徹底的に捜索している」と明らかにした。

以上